

こどもが まんなか いわてのWAっこ

ワクワクドキドキ!



ハンカチ上げ



すべての子どもたちと学校の
ウェルビーイングの実現
を目指して

足場かけ



いわて幼児教育センター通信

No.4 令和7年9月2日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロード
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

きらきら☆いわてっこ&きらきら☆ティーチャー

いわて幼児教育センターの専門員が先月に訪問支援した園で見つけた、ワクワクドキドキな姿をご紹介します。

「遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽」
学びの芽を育むための保育者の役割

〈ワクワクドキドキ!保育体験〉 4・5歳児 7月

「幼児教育推進モデル指定研究事業」(岩手県教育委員会指定)を実施している大槌町教育委員会での保育体験についてです(詳細は裏面参照)。

実は、この日を迎える前に、園で招いた講師による「シャボン玉パフォーマンス」がありました。このパフォーマンスが子どもたちの心を“わしづかみ”にしたとのこと。そして、子どもたちは「ワクワク、ドキドキ、発見、驚き、感動」の体験から「もっと知りたい」「やってみたい」の思いが膨らんだとのこと。園の先生方はその思いをしっかりと受け止めて、子どもたちと話をし、計画を立てたそうです。

このプロセスを経たところで、小・中学校の先生が保育体験に来ました。この日は、自分達が考えた材料で『吹き具』を作り、シャボン玉作りをする計画でした。イメージが膨らんでいる子どもたちは、「やってみたい!」という思いにあふれ、次々とシャボン玉を使って遊んでいました。保育体験に来ていた小・中学校の先生方は、絶妙なタイミングで関わり、子どもたちが「こうしてみたい」というところにすぐに手を差し伸べるのではなく、「どうすればうまくいくと思う?」と関わっていました。

「やってみたいが学びの芽」というフレーズを文部科学省でも発信していますが、まさにこの日の保育は、「やってみたい」という思いから遊びが広がっていった場面でした。

C「ここが難しい」
T「どうすればうまくいくと思う?」
C「そこ押さえてくれれば」



C「穴、100個あけたい」
T「今日はスペシャルな物があります。
M先生お願いします。」
T2「よし!ちゃんと数えていてよ」
C「1, 2, 3...100やったあ!」



②小学校教育との接続

子どもの発達と学びの連続性を確保するためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼保連携型こども園の保育教諭等と小学校の教師が共に園児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。

(幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

p.85)

(観察者の目)

子どもたちのやってみたいという主体的な思いを受け止め、実現に向けて話し合いを重ねながら進めてきたこども園の先生方。

少々難しいことにチャレンジするとき、子どもだけでは使えない道具を使うとき、子どもたちに寄り添いながらも、自分で考え自分の言葉で思いを伝えられるように関わってくれた小中学校の先生方。

いつも、「子どもの学びはつながっている」と思っていますが、先生方の「育みたいという思いもつながっている」と感じました。

モデル指定研究事業の報告 ～大槌町（R7～R8）～

大槌町では、本年度事業の一つとして、7月29日に小学校等の先生を対象とした保育体験を行いました。昨年度まで本事業に取り組んだ一戸町で行われた実践も参考にして取り組んでいただきました。初めての会議の時から、町全体で取り組む雰囲気が生まれていた大槌町。開発会議等を通し「6つの園すべてで保育体験を受け入れましょう」ということになりました。

当日は、朝から各園に集まった小学校の先生たちに、園長先生から園の様子や参観の視点について説明があり、その後、保育体験が行われました。

- ・推進テーマ「架け橋のカリキュラム作成と保育者・教員の専門性の向上に向けた取組」
- ・本年度の重点
 - (1) 指導法の見直し
 - (2) カリキュラム作成
 - (3) 子ども主体の指導の在り方の検討
 - (4) コーディネーター配置に向けた体制整備

【事前送付資料】開発会議で検討したことをもとに、各園・小学校に送付しています。実際に保育体験する先生だけでなく、みんなが共通理解しやすい状況が作られています。



↓先生たちが来るのが嬉しくて、子供達が作ったとのこと。



令和7年度 大槌町架け橋カリキュラム関連事業
子どもたちと触れ合い 一緒に遊ぼう ～保育体験～

1 ねらい
保育体験を通して、幼児の遊びのプロセス、園の環境構成について体系的に理解を図り、幼児一人一人の多様性や0～18歳の学びの連続性に配慮した指導の在り方について考える。
幼保こども園、学校種を越えて先生方が気軽に話し合える関係を構築し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組むことができるようにする。

2 日時
令和7年7月29日（火） 9:00～12:30

3 対象施設及び参加者

施設名	参加者名	参加者所属
●●保育園	先生	●●小 ●●年担任
●●こども園	先生	○●中 養護教諭
○●こども園	先生	●●小 ○●年担任
△△こども園	先生	△△小 △△年担任
△△こども園	先生	△△小 △△年担任
●●幼稚園	先生	○●小 ○●年担任
○●幼稚園	先生	○●小 ○●年担任

4 内容
保育体験（保育サポート、遊びへの参加等 詳細は各園による）

5 参加の際の視点
(1) 体験自体を楽しむことを大事にしながら、子供の遊びの中にある「学びの芽生え」がどこに見られたか。
(2) 園の環境設定や保育者の関わり方の工夫は、どんなところに見られたか。

6 持ち物
(1) 全国共通
動きやすい服装、水分補給用の水筒またはペットボトル、汗拭きタオル、帽子
(2) 各園で必要となるもの
●●保育園 …着替え ●●こども園 …上履き
○●こども園 …上履き、着替え ○●幼稚園 …上履き
△△こども園 …上履き、着替え △△幼稚園 …着替え、エプロン
※着替えは、水道びやトイレ遊び等で汚れる可能性があるため上下ご用意ください。
上履きなしの園は、はだしでの保育となります。

裏面もご覧ください。

ここもポイント！

会議の進め方等、更に詳しく知りたい時は、大槌町教育委員会へ問合わせください。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝保育体験に参加した先生方のリフレクションより＝＝＝＝＝＝＝＝＝

自分のイメージする子どもたちの何倍も、自立的で自治的な子どもたちの姿を見て、子どもたちの力、可能性を自分が狭めて見立てていたことに気づくとともに、子どもの周りの環境づくりが教育において大切なのだと改めて気づくことができました。（小）

先生方は「なんで小さいシャボン玉になったと思う？」「どうして今のは上手にできた（割れた）と思う？」「さっきの道具とどう違った？」という問いを子どもに投げかけていて、根本的に中学校の授業の発問と変わらないと感じましたし、幼児期の子どもたちでもここまで応えてくれるのかと感動しました。（中）

今2年生の担任をしています。小学生が当たり前に自分のことが自分でできるようになっているのは、保育園の先生方のおかげだなあと感謝の気持ちでいっぱいになりました。保育園の先生方から学んだことを、日々の指導に生かしていきたいです。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。（小）

お互いを知る事が接続の第一歩だと、改めて実感した一日になりました。

よろしければ、各市町村・園の取組の様子をお寄せください。「いわてのWAっこ」等を通して、すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現のために、県内の皆さんの共有財産にしていきたいです。

【担当】いわて幼児教育センター

Tel：019-629-6149

Email：DB0003@pref.iwate.jp